

全

ZEN

宗

SHU

協

KYO

組織づくり急ピッチ

## 「品質表示」などの事業化 実現へ向けての取り組み本格化 新しい時代の全宗協へ大きく動き出す

今年四月に政策提言委員から、答申された『組合活性化に向けての提言書』に盛り込まれて

いる「品質表示」などの事業化への取り組みが、本格化した。

京都の「キャンパスプラザ京都」で十一月九日に開かれた役員会でも、前回九月九日の役員会に引き続き、事業化が議題の中心となった。

この日の役員会では、それぞれ担当委員会が決まり、来年二月の次回役員会までに、各担当委員会

で事業化へのタイムスケジュール等を詰めることになった。

新しい時代にマッチした組織へ 全宗協の「変革」は大きく動き出した。

政策提言委員の『組合活性化に向けての提言書』は、今年四月に出された。

この中で政策提言委員は、組合員増強を指しての「組合加入の緩和」、そして「業界スタンダードとしての品質表示の制定」、さらに「仏壇マイスター制度の創設」「青年部・女性部の創設」「仏壇フォーラムの開催」「仏壇コンテストの実施」といった諸策の事業化を強く求めた。

この提言に対し、今年五月十七日の第十八回通常総会で承認された平成十七年事業計

### 「量の増大は質的变化をもたらします」

9月9日の役員会で安田理事長



安田理事長

仏事コーディネーター受験締切の関係で、6月から8月末にかけて組合新規加入申請が多く出され、書面議決により皆様にお諮りした結果、多数の新加入の皆さんをお迎えすることができました。

昔から「量の増大は質的变化をもたらす」と言われおりますように、組合員増

という“量の拡大”は、全宗協の今後には何らかの変化を招くものと期待しております。組合員数はまだまだ370名という全宗協の創立時までは回復していませんが、現在のような増加傾向が続くものとするならば、当然ながら質的变化が起こるものと考えております。

全宗協は、懇話会から全宗連へ、そして今の全宗協へと歩んできているわけですが、従来のような“仲良しクラブ”的なものであってはならないことは論を待ちません。今、時代の流れは大きく変わろうとしています。時代の変化、情勢の変化を敏感にキャッチするとともに、時代に合った新しい組織・機構をつくり出していかなければなりません。

今回、新たに誕生した新規加入組合員の皆さんは、パワーのある方々ばかりですが、商道には正道・本道というものがあります。組織が大きくなろうとも、永年にわたって培ってきた業界の大きな方向性は曲げないようにしていかなければなりません。新規加入の方々にはその点をご認識いただき、信頼される仏壇仏具業界人として歩まれるよう願っております。

重ねて申し上げますが、全宗協は、今、新しい道へ踏み出しました。どのような方向に行き着くかは分かりませんが、正道を求めて歩いていきたいと思っております。



11月9日の役員会 = 京都市の「キャンパスプラザ京都」で

画は、その中で「提言は全宗協の総意でもって戦略的取り組みを行うこととする」として、実現へ強い意志を示した。

この方針に沿って、七月二十日の三役会の申し合わせによって「組合加入の緩和」がスタートした。さらに九月九

日の役員会で、「品質表示特別委員会」の設置が決まり、委員長に小堀賢一氏、副委員長に森正氏が就任した。九月九日の役員会では仏壇文化研究所(BBI)が主催して今年二月に開いた「全国『こんな仏壇あったらいいな』コンテス

ト」に、全宗協も正式に参画し、平成十九年春に予定されている第二回コンテストからBBIと共催することも承認された。

十一月九日の京都での役員会では、残る「仏壇マイスター制度」「青年部・女性部創設」「仏壇フォーラム」を、総務委員会が「青年部・女性部創設」、広報委員会と事業委員会が「仏壇フォーラム」とB

# 京都の東寺で秋の全国研修会 五重塔内部や天皇ゆかりの小子坊など見学



美しい姿を見せる五重塔

秋の全国研修会が十一月九日、京都市南区にある真言宗総本山の東寺(教王護国寺)で行われた。研修会には百三十三人が参加、かつてない盛り上がりを見せた。秋の陽の中、参加者は東寺の土口哲光・教化部長の案内で、弘法大師像が祀られている国宝の大師堂(御影堂)や五重塔の内部、天皇ゆかりの小子坊などを見学、その後、小子坊客殿で土口師の一時間余の法話に耳を傾けた。

都が延暦十三年(七九四)に



土口師に案内されて

平安京に遷都され、その二年後の延暦十五年に東寺の造営が始まる。真言密教を学んで唐から帰朝した空海は、弘仁十四年(八二三)にこの東寺を嵯峨天皇より賜り、そして講堂や諸尊、五重塔の造営に着手する。

東寺は弘法大師空海の御寺



土口師の説明に耳を傾ける



土口師の法話をきく



土口哲光・教化部長

土口哲光師は法話で、四苦八苦を語り、そして四苦八苦を乗り越えた女性として、両手をなくしたものの、終生にわたり「両手のない幸せ」を説き、39年前に80歳で大往生をとげた真言宗僧侶・大石順教師の一生を語った。土口師はこう話した。

「大石先生の一生をしのびますと、四苦八苦は越えられると思います。私が弘法大師のご命日である毎月21日に境内に立ち、東寺を訪れた皆さんに『ようこそ東寺においでになりました』と一日中声をかけ続けるのも、そういう思いがあるからです。大石先生があれだけのことをされたわけですから、私のような出来の悪い人間は、立ち続けてこそ自分の人生だと思っています」

「私には両手があります。両脚もあります。東寺に来られる方々は、誰もが仏さんであり、その仏さんに頭を下げて『ようこそ東寺へ』『ようこそ東寺においで下さいました』と、せめてそのくらいのお礼を言って過ごすのが、私の生涯だと思っております」

(みてら)であるわけだが、千二百年の歴史をたたえた寺観はさすがに壮大だった。境内地四万八千坪。甲子園球場が



参加者全員で記念の写真

四つ入る広さだ。国宝なども多く、仏教芸術の宝庫でもある。その中を大師堂、五重塔の内部、金堂、講堂、そして天皇を迎える建物である小子坊を見て回った。堂本印象画伯の襖絵で飾られた小子坊は、一般には公開されていないが、この日は特別に見学が許された。

五重塔の姿に圧倒され、金堂では本尊の薬師如来、脇侍の月光・日光の両菩薩に魅惑されて釘付けのようになり、

普段、あまり見る機会のない諸堂、諸尊に誰もが感嘆しきりだった。

## 組合への新規加入、増強続く

### 十一月末で三百二十一人に

組合員の増強が続いている。組合員は一時期、二百七十名まで落ち込んだが、昨年从今年にかけて増強に転じ、この十一月末時点での正組合員数は三百二十一人となった。全宗協発足時の組合員は三百七十名を数えた。会員増強委員会では発足時の組合員数確保を「悲願」として全力をあげているが、悲願達成は視野に入ってきたといえそうだ。

組合員が増強に転じた最大の賛助会員は十一月末で十八

名を数えているが、増強への「呼び水」の役割を果たしたともいえる賛助会員制度は、来年三月末で「おためし期間」が終わることになっていることから、会員増強委員会では、正組合員に切り替わってもらおうよう働きかけを強めることにしている。

この二つに加え、今年七月二十日の三役会での申し合わせで、「加入基準の緩和」がスタートしたことも大きい。

会員増強委員会の保志正之委員長は、「仏壇マイスター制度や青年部・女性部の創設、仏壇フォーラムの開催、仏壇コンテストの実施といった事業化が進めば、全宗協は今以上に魅力ある組織になります。組合員は今後も増強傾向が続くとみており、三百七十名という全宗協発足時の組合員数は、ここ二年ぐらいの間には回復できるのではないかと考えています」と話している。

### 新規加入の組合員の皆さん

村井一雄	(尙)村庄	盛岡市材木町7 43
小野秀一	(尙)小野林業 おのりん	宮城県遠田郡涌谷町小里字長根北91
堺野多美夫	(尙)一休さん大黒堂	福島県会津若松市東千石2 1 12
梅木信次	(尙)瑞雲堂	福島県喜多方市岩月町宮津字西原1192 5
大川勝男	潮来仏壇センター 桧屋	茨城県潮来市宮前2 22 12
松野智幸	(尙)松屋仏具店	茨城県東茨城郡茨城町長岡3523 39
小山田一夫	(尙)宝冠	宇都宮市海道町651 3
伊部泰行	(尙)伊部典礼	群馬県伊勢崎市大手町13 10
清水光夫	(尙)えぼし葬祭	群馬県群馬郡榛名町中里見418 1
山口眞也	(尙)山口仏心堂	千葉県流山市南流山1 24 8
小森規與志	(尙)香伸	東京都中央区日本橋小網町11 6
青地 博	新川崎雲山堂	川崎市幸区下平間48 103
清水鐵夫	(尙)清水康益社	横浜市港南区港南中央通4 11
岐津晃平	岐津(尙)きつな堂	福井市大願寺2 9 7
橋本 誠	(尙)橋本仏壇家具センター	福井県敦賀市木崎19 15 3
袁島晋一郎	みの島仏壇店	岐阜県郡上市白鳥町白鳥1088 11
伊藤末恵	(尙)アイエス商事文珠堂	岐阜市葵区城北2 4 3
内藤 明	(尙)大黒屋仏壇店	名古屋市中区門前町5 8
福増重男	(尙)福増仏壇	三重県伊賀市上神戸3265 3
清本啓子	京仏具佛壇 誠心堂	京都府城陽市長池北裏103 53
松田政一	(尙)セレモニーマつだ	京都府与謝郡岩滝町字弓木956
安東佑職	EHインテリア(尙)	大阪府平野区平野西5 2 1
村上幸代	(尙)村上佛壇	大阪府城東区蒲生4 16 13
黒沢美代子	(尙)黒澤商店	大阪府堺市鳳東町6丁644 2
千原延一	(尙)千原佛壇店	大阪府吹田市岸部北5 44 3
富田博重	(尙)大仏堂	兵庫県丹波市氷上町横田777 5
高木初義	(尙)タカギ工芸	神戸市西区白水2 3 21
中谷貞夫	(尙)小林朱雲堂	倉敷市笹仲1093 3
浜崎正勝	お仏壇の創贈館	鳥取市南栄町60 5
山崎慶子	(尙)山崎仏壇店	佐世保市若葉町1 8

### お詫びと訂正

前号の六月の会報で紹介した「新規加入の正組合員の皆さん」の中で、誤りがありました。富山県高岡市の「サカエ金福(尙)」の金澤恵子さんのお名前は、正しくは竹澤恵子さんでした。また、甲府市の開雲仏壇は正しくは開運仏壇でした。深くお詫びするとともに、訂正させていただきます。

# 三百二十二人が見事に資格を取得 今年の仏事コーディネーター試験



試験に先立ち講習。ひとつも聞き逃すまいと講師の話に耳を傾ける = 東京会場



さあ、いよいよ試験！  
試験問題が一人ひとりに配布される = 東京会場

三百二十二名の皆さんが、見事に資格を取得。昨年に続き二回目となる仏事コーディネーター試験が十一月十五日（火）、東京と大阪の二会場で行われ、両会場合わせて三百三十一人が受験した。十一月七日に開かれた仏事コーディネーター資格審査協会の合否判定会議の結果、このうち三百二十二人が見事にコーディネーターの資格を手にした。合否結果は直接受験者に通知され、同時に認定証とIDカードが郵送された。

試験は東京は新宿区霞ヶ丘町の日本青年館、大阪は大阪  
市中央区難波のnambap  
LACEで行われ、東京では百三十三人、大阪では百九十九人が受験した。  
試験に先立ち、午前十一時から昼食をはさんで「仏事コーディネーターの使命と心構え」と、「検定用テキスト『仏壇仏具ガイダンス』の解説」の二つの講習が行われた。  
試験は、午後二時五十分から一時間行われた。  
昨年の第一回試験では六百十二人が合格しており、今回と合わせ九百三十四人の仏事コーディネーターが業界に誕生したことになる。



試験終了ぎりぎりまで答案を見直す = 東京会場



昼食時間も惜しんで勉強、べんきょう = 東京会場



大阪会場もびんとした緊張感につつまれた

## ひろば

### 「登山」

徳島県 森 正

今号から組合員の皆様の声のコーナーとして「ひろば」を新設しました。皆様の投稿をお待ちします。とじとしお寄せ下さい。第一回は森正氏の「登山」です。

今年の夏、ようやく北アルプスの白馬岳に登ることができた。知つてのとおり、白馬岳といえば夏場の大雪渓を歩くのが醍醐味で、登山愛好家の間では一度は登ってみたい山として有名である。谷筋に固まった根雪の上を、アイゼンという鉄の爪を登山靴に付けて登って行くのだが、中高年の登山ブームの影響か、真つ白い雪渓を蟻の行列のように大勢の人が登っていた。生憎、当日の天候は余り良くなかったが、ガスの晴れ間に見える山容は、神々しいほど峻厳で、四国の山では味わえぬ感動があった。

いきなりアルプス登山の話などしたが、僕が本格的に山登りを始めてから、まだ一年半しか経っていない。五十路を過ぎて体力の衰えを気にした僕に、「歳をとつてもやれる、いいスポーツがある」と、腰をこわした友人が誘ってくれたのがはじまりである。

それまで、僕は近くの里山へ時々ハイキングに行ったりしていたので、軽い気持ちで応じたが、いざ本格的な登山にチャレンジしてみると、二十分も登れば息が切れ、足が上がらない。長丁場の下りでは、スキーで痛めていた膝が、笑うのを通り越して、杖無しでは歩けないほど痛んだりした。同行していたメンバーはというと、六十近い年長者をはじめ、糖尿病、高血圧、腰痛持ちなど中年ハンディキャップ集団だったので、僕の体力的自負は大いに傷ついてしまった。

それからは、恥をかきたくない一心で、毎日一時間のウォーキングや筋トレをやったり、休みにはすぐ近くにある城山でトレニングを続けた。その間に、地元徳島にある二千メートル級の山へも同行したが、遅れず歩いていくのがやっとという状態であった。

晴れて資格を手にした皆さん

東京	青木 俊郎	太田 幹人	鈴木 忠	若月 真理	加納 吉則	高橋 数俊	二星 信之	松本 進
青地 直樹	太田 陽二	鈴木 正彦	若山 法生	脇屋 わか子	神谷 淳司	高橋 克己	後野 アヤ子	馬淵 ひとみ
青山 順一	大竹 俊文	須藤 謙一	渡邊 直子	川上 利幸	川上 利幸	高橋 照美	野々山 国幸	三浦 豊隆
秋山 佳子	大森 博	竹谷 伸人	立花 秀二	立花 秀二	川喜田 年子	高橋 雅之	橋本 明子	三上 智子
浅山 静男	小川 明男	立脇 吉晃	田中 利夫	田中 利夫	甲谷 美代子	滝本 ゆり子	橋本 誠	御立 芳樹
浅香 君子	小嶋 浩一郎	塚原 幸一	辻 尚美	辻 尚美	北野 隆之	武内 孝親	花土 剛	光久 典臣
飯田 洋子	小野 賢一朗	加藤 誠	加藤 誠	加藤 誠	北村 達也	竹内 実行	馬場 国広	南岡 幸生
飯塚 寛一	加藤 誠	永井 正一郎	河合 正一郎	河合 正一郎	岐津 晃平	田中 宏樹	濱崎 正勝	三原 孝元
飯沼 孝吉	加藤 誠	木下 久照	木下 久照	木下 久照	谷川 綱代	原田 和幸	原田 和幸	宮窪 雅一
五十嵐 直文	池嶋 登志雄	石井 登志雄	石井 登志雄	石井 登志雄	谷川 秋	平田 勝巳	平田 勝巳	村井 和弘
石橋 堅司	石橋 堅司	久保田 昌宏	久保田 昌宏	久保田 昌宏	谷川 雅彦	深田 充博	深田 充博	村上 尚志
石橋 優子	石橋 優子	越川 雅彦	越川 雅彦	越川 雅彦	伊勢 雅彦	福田 光	福田 光	村尾 尚志
井嶋 英一朗	井嶋 英一朗	五野上 優	五野上 優	五野上 優	磯松 珠絵	福増 久史	福増 久史	村上 又久
井谷 和子	井谷 和子	小林 和彦	小林 和彦	小林 和彦	黒沢 哲也	福田 和美	福田 和美	森川 康彦
伊藤 輔雄	伊藤 輔雄	小林 京子	小林 京子	小林 京子	熊田 のり子	福田 光	福田 光	森川 康彦
伊藤 たつ子	伊藤 たつ子	駒澤 舞	駒澤 舞	駒澤 舞	熊田 のり子	福田 光	福田 光	森川 康彦
伊藤 弘子	伊藤 弘子	小山 孝	小山 孝	小山 孝	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦
伊藤 末恵	伊藤 末恵	近藤 喜彦	近藤 喜彦	近藤 喜彦	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦
伊藤 弥栄子	伊藤 弥栄子	近藤 保博	近藤 保博	近藤 保博	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦
伊藤 善高	伊藤 善高	齋藤 治	齋藤 治	齋藤 治	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦
井上 徹	井上 徹	齋藤 秀康	齋藤 秀康	齋藤 秀康	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦
井上 泰行	井上 泰行	齋藤 秀康	齋藤 秀康	齋藤 秀康	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦
今井 清美	今井 清美	笹山 直樹	笹山 直樹	笹山 直樹	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦
岩上 保秀	岩上 保秀	佐藤 高広	佐藤 高広	佐藤 高広	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦
植木 真二	植木 真二	佐藤 喜洋	佐藤 喜洋	佐藤 喜洋	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦
内村 聡子	内村 聡子	三瓶 敏文	三瓶 敏文	三瓶 敏文	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦
内田 志津子	内田 志津子	三瓶 敏文	三瓶 敏文	三瓶 敏文	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦
梅木 功	梅木 功	塩見 康史	塩見 康史	塩見 康史	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦
梅原 美由貴	梅原 美由貴	塩見 康史	塩見 康史	塩見 康史	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦
上野 映子	上野 映子	塩見 康史	塩見 康史	塩見 康史	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦
越前 晃一	越前 晃一	清水 敏彦	清水 敏彦	清水 敏彦	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦
海老沢 きよみ	海老沢 きよみ	清水 敏彦	清水 敏彦	清水 敏彦	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦
江俣 祐哉	江俣 祐哉	清水 敏彦	清水 敏彦	清水 敏彦	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦
大井田 透	大井田 透	清水 敏彦	清水 敏彦	清水 敏彦	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦
大川 勝男	大川 勝男	清水 敏彦	清水 敏彦	清水 敏彦	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦
大川 幸子	大川 幸子	清水 敏彦	清水 敏彦	清水 敏彦	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦
大坂 千鶴	大坂 千鶴	清水 敏彦	清水 敏彦	清水 敏彦	黒沢 哲也	福田 光	福田 光	森川 康彦

**受験者アンケートから**

仏事コーディネーター資格審査協会では試験終了後、受験者にアンケートに回答してもらった。受験した動機については、「会社から話があったが、自分からも受験したかった」「どの程度の知識が必要なのか知れたかった」という積極派が目立った。試験問題については、「事前に講義があつて助かった」「講習がなければできなかった」「スピードが早すぎた」とする一方で、「問題数はもっと多くてよいと思う」「試験前に解答を教える必要があるのか疑問。何のための試験か」「もっと問題を難しくすべきだ」という「厳しい意見」もあつた。



立山登山での森正氏

しかし、人間、歳をとつても結構筋力や持久力は向上するものだ。年末に行われたタイムトライアルでは、「千メートルを二時間で登れば、アルプスへ連れて行く!」という関門を、ようやく突破することができたという次第である。

ところで、山登りをやってみて感じることは、これほど単純なスポーツはないことだろう。頂上という明確な目標を持って、苦しい思いをしながら、ただひたすら登る。それでも山登りにハマってしまうのは、苦勞して頂上に立つたときの達成感である。山頂で、喉の渇きを癒しながら、眼前に開けたパノラマを堪能するのは最高の気分である。

その他にも、山登りには普段経験できない素晴らしい景色がたくさんある。まず、都会では味わえない新鮮な空気が、四季折々に姿を変える山の景観があげられる。次に、山頂で食べる弁当はどんな高級料理より美味しい。さらに、山小屋に泊まつたりすれば、手の届くほど近い満天の星が降り注ぐ。

山ですれ違う赤の他人と声を掛け合うのも、爽やかで気持ちがいい。時には道に迷つたり、転落したりするような不測の事態に遭遇することもあるが、リスクに対するシミュレーション効果が期待できる。一番良いことは、山登りにはあまりお金もかからないし、何歳になつても続けられる。最近、山登りのことになるとつい饒舌になつてしまつて自分気付いて、苦笑いをしてるこの頃である。

世界遺産アンコール遺跡とホーチミン3泊5日

	発着時間	発着地	交通機関	スケジュール(宿泊地)
4月17日 (月)	11:15	関西空港発	VN951	空路ホーチミン乗継ぎシェムリアップへ 空路ホーチミン乗継ぎシェムリアップへ  関西組と成田組は空港で合流  着後、ホテルへ シェムリアップ泊、昼食は機内、夕食はレストランまたはホテル
	11:30	成田空港発	VN951	
	14:25	成田組ホーチミン着		
	14:45	関西組ホーチミン着		
	夕刻	ホーチミン発	VN	
	夕刻	シェムリアップ着	専用車	
4月18日 (火)	午前	シェムリアップ	専用車	世界遺産アンコール遺跡群の観光 アンコールトム観光 バイヨン寺院、像のテラス、南大門など アンコールワット観光 プノンバケンの丘より夕陽に映えるアンコールワット観賞 シェムリアップ泊、朝食はホテル、昼食は中華料理、夕食はクメール料理(ディナショー)
	午後 ~ 夕刻			
4月19日 (水)	午前	シェムリアップ	遊覧船	東南アジア最大の湖トレンサップ湖遊覧を楽しむ シェムリアップのマーケット散策後、空港へ ホーチミン泊、朝食はホテル、昼食はタイ料理、夕食はベトナム料理
	午後 夜	シェムリアップ発 ホーチミン着	専用車 VN	
4月20日 (木)	午前		専用車	ホーチミン市内工場視察と観光 午前中に仏壇製作などの工場見学2~3ヵ所 昼食後、ドンコイ通りの散策やホーチミン最大のペンタン市場の活気溢れた光景見学 夕食後、空港へ 空路、大阪へ 機中泊、朝食はホテル、昼食は飲茶、夕食は海鮮料理(ソングー)
	23:30 (関空組) 23:30 (関空組)	ホーチミン発	VN940	
4月21日 (金)	06:45	関西空港着		
	07:25	成田空港着		

# 来春、ベトナム・カンボジア海外研修 仏壇製作工場見学やアンコールワット観光 四月十七日~二十一日、「海外」は全宗協初

全宗協初の海外研修が来春四月に行われることになった。

十一月九日の京都での役員会で決まったもので、四月十七日(月)出発、二十一日(金)帰国の三泊五日機中泊を含む)の日程で、ベトナム・カンボ

ジアを回る。ベトナムでは仏壇製作工場(金倉仏光堂)を見学、またカンボジアでは、世界遺産となっているアンコールワット遺跡の観光などがコースに組み込まれている。

成田空港発の「成田組」と関西空港発の「関空組」の二グループに分かれて出発する。二グループはホーチミンで合流する。

研修旅行のスケジュールは別掲の通りだ。一人当たりの旅行代金は、成田組が十六万

三千元、関空組が十六万円(いずれも参加者が十五名以上の場合の金額)となっている。

全宗協初めてのこの海外研修は、今年二月の事業委員会(小堀賢一委員長)で提案されたもので、中国方面も検討されたが、日中関係などを考えるとふさわしくないとされた。そのためベトナム・カンボジア研修が浮上した。

参加希望者は十二月末までに、JTB作成の用紙で事務局に申し込む。研修事務の進行責任者である事業委員会の池田典明副委員長は、「今回の海外研修には組合員の皆さんも大変に関心を持っており、参加者は成田・関空組合わせて四十名を突破するのではないだろうか」と話している。

## 無料法律相談

森顧問弁護士が組合員からの電話あるいはFAXによる無料法律相談に応じます。ご希望の方は下記へ直接ご連絡ください。

森・吉村法律事務所



顧問の森弁護士

弁護士 森 恕(はかる)  
〒541 0043  
大阪市中央区高麗橋1-5-14  
メゾンドール高麗橋605  
TEL 06 6222 3700  
FAX 06 6232 0200

# 次期通常総会は五月十七日に神戸で

二月二十二日に浅草寺で春の全国研修会

第十九回となる平成十八年度の通常総会は、五月十七日（水）に神戸市の「神戸ポートピアホテル」（神戸市中央区港島中町）を会場に開かれる。神戸市で初めてとなる通常総



神戸ポートピアホテル



本館30階のスカイラウンジからの眺め

会は、新しい時代に向けて、「再出発」を強くアピールする場となる。総会では役員改選も行われる。

会場となる「神戸ポートピアホテル」は、港内につくられたはポートアイランドにある。本館と南館からなり、本館は三十一階、南館は十六階。周囲を海に囲まれ、異国情緒あふれる三百六十度のパノラマを楽しめる。

阪奈兵和地区での通常総会は、四月に起きたJR福知山線の快速電車脱線事故で、地区協議会会長だった武部譲治

氏が亡くなられたことで、一時、開催が危惧されたが、「故人の遺志を大事にしたい」という地区協議会の熱意で神戸市での開催が決まった。

なお、阪奈兵和地区協議会の新しい会長には、片川昭夫氏（大阪府堺市の不動堂株式会社代表取締役）が選任され、同時に常任理事に就任した。

春の全国研修会は二月二十二日（水）に東京の浅草寺で開かれる。ご祈祷を受け、絵馬堂の拝観、小堀遠州作と伝えられる本坊「伝法院」の回遊式庭園の散策、その後に懇親会が予定されている。

## 事務局からのお知らせ

印刷物等を有償頒布しています

「日々感謝」のポスター、ステッカー、リーフレット

国産仏壇統一表示タグ、ポスター

父母恩重經

地区別仏壇カタログ「お仏間」

図書『浄土宗』『仏壇仏具ガイドンス』

テープ『仏具のまつり方』

ビデオ『金箔のできるまで』『広島仏壇のできるまで』『京念珠』『大阪念珠』

価格は事務局にお問い合わせください。

本号の会報から「ひろば」のコーナーを新設しました。皆様方の投稿をお待ちしております。ご意見、エッセイなど何でも結構です。お待ちしております。

「お店紹介」および「リンク貼り」の申込みは38社ありました。

全宗協ホームページ「お店紹介」「リンク」は、日本テンプルヴァン(株)で作業中です。



春の全国研修会が開かれる東京の浅草寺



浅草寺の五重塔

# 次回のBBI主催の仏壇コンテスト 全宗協も参画を決定、BBIと共催へ

仏壇文化研究所（BBI）が今年二月に開いた「全国『こんな仏壇あったらいいな』コンテスト」に、全宗協が正式に参加し、次回のコンテストはBBIと共催することになった。

BBIが主催しての第一回コンテストは、今年二月九日・十日、東京の増上寺で開かれた。この第一回コンテストに対して全宗協は協賛の形

をとり、全宗協理事長賞、デザイン賞、技能賞、創作賞を贈ったが、次回からは正式に参画し、BBIと共催することになった。次回は平成十九年春に予定されている。

BBI側から「共催として参加してほしい」との声が出されたのを受け、九月九日の理事会（役員会）で協議の結果、次回から正式に参画し、共催することが承認された。



全宗協デザイン賞のpriere (小野屋漆器店)



全宗協技能賞の高級モダン「さきがけ・洋」(保志卸センター)

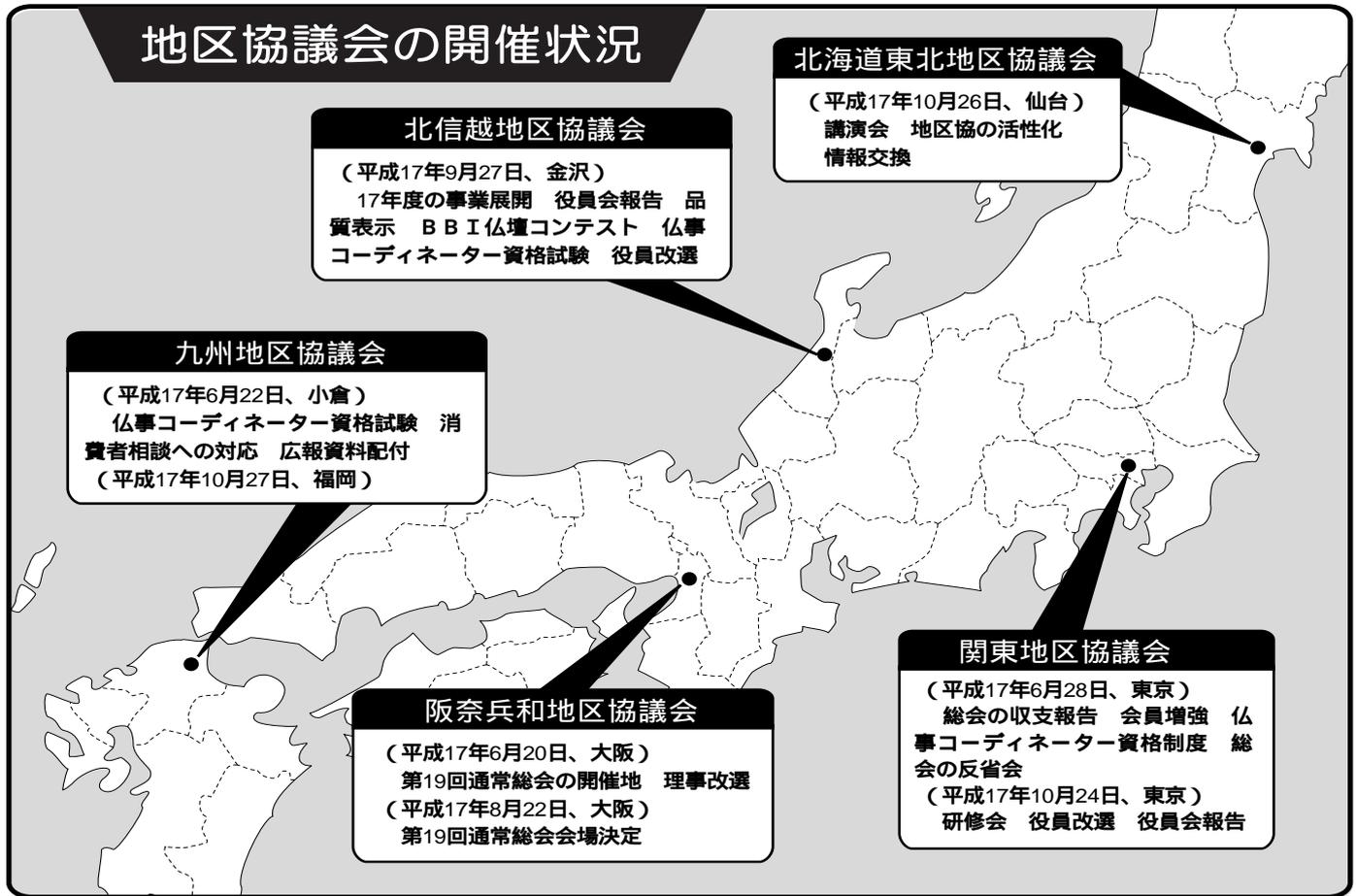


今年のコンテストで全宗協理事長賞となった「楓」(三村松)



全宗協創作賞の「カラー」(ずさや)

# 地区協議会の開催状況



## 訃報

地区名	組合員	ご逝去	逝去日
北信越地区	(株)山文商会	ご母堂みさを様 94歳	平成17年 6月29日
阪奈兵和地区	(株)松谷佛具店	ご尊父和内様 78歳	同 7月25日
京滋地区	(株)松栄堂	ご尊父茂太郎様 82歳	同 7月29日

## 編集後記

京都市中京区の京都全日空ホテルで十月二十、二十一日の両日、女性経営者を対象とした講習会があった。「レディース中央会フォーラム2005 in 京都」と名づけられたこの講習会は、全国中小企業団体中央会と京都府中小企業団体中央会との共催で開かれたものだが、会場は、全国から集まった二百七十人にのぼる女性たちで満杯だった。

全国中小企業団体中央会は中小企業庁の特別認可法人だが、いま、その中央会は女性経営者の資質の向上と組合女性部の組織強化に力を注いでいる。政府等の経済報告では、景気は回復基調にあるというものの、中小企業、とりわけ地方の中小企業は依然として厳しい。この「苦境」を女性パワーで切り抜けていこう、というわけだ。

京都での講習会開催と併行して、中央会では、全国の各業界団体での女性部の設立状況についての実態調査を行っている。昨今、女性の力を経営に活かしてもらおうと、女性部の設立に踏み切る団体が各地で増えつつあるといわれるが、女性部はどのような活動をしているのだろうか、設立していないところでは、設立についてどのように考えているのかといった点を、今後のためにしっかりと把握しようというねらいだ。

全宗協事務局にも、中央会の連携組織推進部から調査書が送られてきたと聞く。全宗協では、先に政策提言委員が安田理事長に「答申」した「組合活性化に向けての提言書」の中で、「仏壇マイスター制度の創設」「仏壇フォーラムの開催」などとともに、「青年部、女性部の設置」の実現化を強く求めた。この提言に基づき全宗協では組織をあげて取り組みを始めているが、ちょうどその段階で調査書が郵送されてきたわけである。

事務局では「設立の方向で検討している」と回答したそうだが、全宗協に女性部をつくるというは大変に結構なことであり、大いに賛成だ。世の中、もう男性だけが動かす世界ではなくなっている。どの事業所、どの職場も目をキラキラとさせた女性たちでいっぱいだ。それは地球全体がそうだといいよう。

女性には男性にはない顧客対応能力がある。「ねばり」にしても、男性社員より上という女性はいま少なくない。事務能力やIT機器操作にもたけている。こうした女性の力を、フルに活用、しない手はない。男性では浮かばなかった起死回生のアイデアだって生まれる可能性がある。仏壇仏具業界の今の「閉塞的」な状況に風穴を開けてくれるかもしれない。

仏事コーディネーター資格制度が大きな誘因となって、全宗協の組合員は増強に転じている。全宗協発足時の三百七十名を回復するまでにはまだ時間が必要だが、三百七十名は視野に入ってきたと言っよう。この機を逃さず、業界発展と消費者のための組織として大いなる「再出発」の鐘を鳴らすべきだろう。女性部の設立もその一つと言えまいか。今後に期待することである。